

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基本的な知識の定着や、分野に関して差はあるが、記述問題に取り組もうとする生徒が増えている。
- ・実験結果を表やグラフにまとめ、話し合い、判断し、考察する生徒が増えた。
- ・ワークなどの問題集を单元ごとに行い、内容の定着をはかろうという姿勢が増えた生徒が多くなった。

(2) 課題

- ・各学年の分野ごとの結果を考慮し、分析、推察などの思考力を向上させる改善に努める。
- ・計算して答えを求めることを苦手としている生徒の支援、改善に努める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎・活用共に目標値に対して、正答率が大きく下回った。観点別に見ると、知識・技能の方が思考・判断・表現より正答率が高い。		
第2学年	基礎、活用ともに目標値に対して、正答率が大きく下回っている部分が多い。	目標値とあまり大きな差は無かった。基本となる知識・技能はある程度身についており、活用する力も目標値を上回っている。	
第3学年	基礎、活用ともに目標値に対して、正答率が下回っているが、活用の正答率は目標値との差が小さい。	基礎、活用ともに目標値に対して、正答率が大きく下回った。	全体的に目標値を下回った。基本となる知識・技能はある程度身につけているが、それを活用する力が不十分である。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全単元を通し、基礎的な知識の定着が不十分である。技能において、気体の検出法や月の形を推測するための方法が高い正答率となっていた。	全体的に、基礎的な内容の理解および定着が不十分であるため、それを生かして推測したり説明したりする力が低い。	意欲的に授業に取り組む姿は見られるが、苦手意識のある生徒が多い。正しい知識を定着させるための学習習慣の確立に課題が見られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物分野での、シダ植物のからだのつくり、無セキツイ動物の特徴、地学分野の化石、緊急地震速報の分野において、目標値を大きく下回った。	化学分野の気体の集め方、物理分野での凸レンズの焦点距離、地学分野での地震の揺れと規模の大きさの関係などの分野で目標値を大きく下回った。	基礎的な事柄を繰り返し学習することにより、定着が高まるという姿勢が不足している。また、計算問題に関して苦手意識が強い

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「発熱反応」、「日本の気象」、「気象観測」、「動物、植物のからだのつくりとはたらき」に関する基本的知識が定着していない。	前線にともなう気象の変化や電流の大きさを求めること、直流と交流の性質などの力が不十分である。説明する記述力や数的な処理の力が低い。	知識および思考の観点における定着率の不足が、結果として本観点の全体の不十分さにつながっていると考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに、ワーク等で繰り返して学習し、小テストで内容の定着をはかる。学習習慣が身につくよう、学習法に関するアドバイスも含めながら授業を展開していく。	科学的に思考・表現することができるよう、穴埋め形式やチャート形式を用いて記述に慣れるための活動を取り入れる。また、数値計算の練習時間をもうけ、苦手意識の軽減をはかる。	身のまわりの科学的事象に対する関心が高いので、学習内容と自身の経験とのつながりを生徒自身が認識することのできる授業展開を考える。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
達成率が不足している分野について、定着をめざし、今後も、基礎的な事柄をワーク等で繰り返し学習させる。単元ごとにワークを学習させ、小テストなどで確認をして内容の定着をはかる。	ワークの章末問題の応用に関する内容を単元ごとに考えさせ、実験の結果から分かったことを班で考察させて発表させる機会を多くしていくよう工夫する。	普段の授業より、身近な内容を関連づけて行くように心がけている。それを継続しながら、応用や発展的な内容にも触れ、科学に関する興味・関心を高めていくようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学分野の発熱反応、生物の組織と器官、動物の感覚神経、気象の天気用図記号、電気分野の直列、並列回路の電力の関係の基礎的な事柄を、ワークや小テストなどで繰り返し確認させて定着をはかる。単なる受け身の学習ではなく、学習の進め方のアドバイスなども含めながら、意識して言葉かけを続け、授業展開を工夫する。	自ら考えて表現できるよう、実験の考察などを班活動での話し合いで考えさせ、理解を深める。さらに、個々が意見を表現できるよう、レポートの評価まで行うようにする。正解が1つではない問いや、活用に関する問いを取り入れ、互いに刺激し合う授業展開にする。	実験器具の使い方を正しく理解させた上で、実験、観察の時間を多く取り入れていく。また、身近な現象を取り上げ、日常生活と関連づけさせる授業展開を心がけ、主体的に学ぶ態度が高まる状況を作る。